



平成三十年四月二十四日

皇紀2678年
(西暦2018年)
第165号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

季節感がいろいろおかしいような

季節が前倒しになっています

これを書いているのは四月二十四日です。全国的に暑いようです。ニュースでもたびたび取り上げられています。4月としては観測史上もっとも高い気温を記録した地点が、かなりの箇所あるようです。

毎回書いていっていることですが、こんな風に一気に気温変動が大きくなると、体の方がついていけなくなることも指摘されています。この場合、体調を崩すだけではなく、免疫力などの低下も起こしやすくなるようで、より注意が必要だということが呼びかけられています。

皆さまにおかれましては、体調に十分注意してお過ごしください。



神社うんちく帖

さて、今回も引き続き『古事記』に則って、神々またちのご紹介記事です。

◆角杙神・活杙神 つのがひのかみ・いくぐひのかみ

前回登場した「宇比地邇神・須比智邇神」の次に現れた神々です。こちらの二柱も詳しいことはよくわかっていません。

諸説ありますが、名前の中にある「くひ」という言葉にはいくつか意味があり、それによって解釈も違っていているようです。

▼「くひ」は「杙(くい)」であり、地面に打ち込んであるもので、大地がより一層しっかりとしたことであるという説。

▼「くひ」は「芽ぐむ」などの言葉に使われている「くむ」であり、「角ぐむ」で角のように芽ぐむ、「いく(活)ぐむ」で育ち始める、といった説。

どちらにせよ、大地がしっかりとした物になり、生命が根付くことができるようになったという意味が込められていると思われれます。

ちなみに、角杙神は「陽神(男神)」であり、活杙神は「陰神(女神)」であるとされています。『古事記』原文には「妹活杙神」という記述がされています。「妹」は古代において「愛しい人」という意味もあります。なので、この二柱は夫婦神とも言われています。

◆意富斗能地神・大斗乃辨神 おほとのぢのかみ おほとのべのかみ

次に現れたのが、この二柱の神々たち。こちらの神々も詳細は全然わかりません。しかしどちらの神々も「大地にまつわる神々」であるという見方は、共通しているようです。

こちらも男女一対の神々までであるとされ、意富斗能地神が「男神」で、大斗乃辨神が「女神」と言われています。

前段で紹介した活杙神と同様に、大斗乃辨神も『古事記』においては「妹大斗乃辨神」と記述されています。このことから、この二柱の神々も夫婦神と見る説もあります。

さて、ここまでの神々またちの働きによって「大地」が固められ、そこが「生命をはぐくむ場」としての完成に近づきました。しかし、まだまだ日本の生成には至っていません。日本を作ったイザナギ・イザナミはまだもう少し後に登場します。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。